

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2020.3) 令和元年度:52-53.

妊娠期からの腰痛の有無が母乳育児に与える影響～自記式質問調査を用いて～

澤田 侑希, 鈴木 彩花, 土本 真維, 出村 唯, 石倉 かおり

# 妊娠期からの腰痛の有無が 母乳育児に与える影響 ～自記式質問調査を用いて～

旭川医科大学病院 周産母子センター  
澤田侑希 鈴木彩花  
土本真維 出村唯 石倉かおり

演題発表内容に関連し、発表者らに開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

## 目的

産後の腰痛は母乳育児の妨げとなり母乳率を低下させると考え、腰痛の有無と実態、母乳率との関連を明らかにする。

## 方法

- 研究対象：2017年9月～2018年9月に当院で出産した褥婦のうち、入院中に母児分離となった褥婦、妊娠期に切迫早産等で入院管理を指示されていた褥婦を対象から除外した282名。
- データ収集方法：看護記録から情報収集及び、アンケートを送付し99名の有効回答を得た。(回収率35.1%)
- 調査内容：年齢、身長、体重(非妊時、最終妊婦健診時、1ヶ月健診時)、妊娠期の就労の有無、妊娠分娩歴、分娩方法、分娩週数、児の出生体重、腰痛の部位、腰痛の程度、児の栄養方法(退院時、1ヶ月健診時)を調査した。腰痛のある群とない群とで比較・分析した。
- データ分析方法：アンケートを単純集計し、 $\chi^2$ 検定とフィッシャー正確確率検定、t検定を用いて分析した。自由記述などの質的データに関しては、意味内容の類似性に従って分類した。

## 倫理的配慮

- 旭川医科大学倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号18191)。
- 本研究で得られた研究対象者の情報は、本研究目的以外に使用しない。

## 結果

### 【腰痛の発生率】

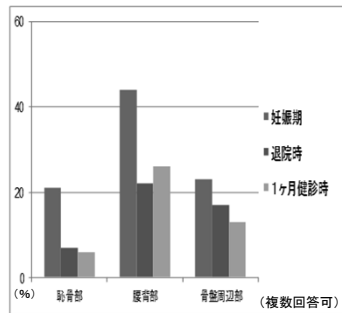
妊娠期 77.8%  
退院時 49.4%  
1ヶ月健診時 48.4%

### 【腰痛の発生部位】

腰背部痛を訴える人が全期間を通して最も多かった。

### 【痛み(\*VAS)の程度】

妊娠期 4.66(最低1.0点、最高10.0点)  
退院時 4.21(最低0.4点、最高9.2点)  
1ヶ月健診時 4.02(最低0.5点、最高10.0点)



\*VAS(Visual Analogue Scale)は痛みの強さを最低0点、最高10点で表すスケール

## データ①

|          | 全症例n         | 腰痛あり         | 腰痛なし         | p値     |
|----------|--------------|--------------|--------------|--------|
| 症例数      | 99           | 82           | 17           |        |
| 母体年齢(歳)  | 33.4±4.6     | 33.4±4.8     | 33.2±3.8     | 0.90※  |
| 初産       | 46           | 38           | 8            | 0.96※※ |
| 経産       | 53           | 44           | 9            |        |
| 分娩様式     |              |              |              |        |
| 経産分娩     | 65           | 55           | 10           | 0.51※※ |
| 帝王切開     | 34           | 27           | 7            |        |
| 出血量(g)   | 637.5±496.6  | 657.1±521.0  | 601.2±368.8  | 0.67※  |
| 妊娠週数(週)  | 38.8±1.2     | 38.9±1.2     | 38.5±0.9     | 0.25※  |
| 出生体重(g)  | 2977.2±360.8 | 2986±373.7   | 2931.1±295.9 | 0.57※  |
| 経産分娩     | 3006.3±338.5 | 3019.8±346.3 | 2932.0±297.0 | 0.45※  |
| 帝王切開     | 2921.6±399.3 | 2919.4±423.1 | 2930.0±294.5 | 0.95※  |
| 非妊時BMI   | 21.5±3.4     | 21.6±3.5     | 21.3±3.3     | 0.74※  |
| 体重増加(kg) | 9.9±3.2      | 9.9±3.2      | 9.8±3.6      | 0.85※  |

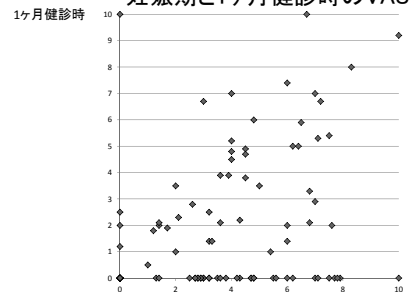
※t検定、※※ $\chi^2$ 検定、フィッシャー正確確率検定

## データ②

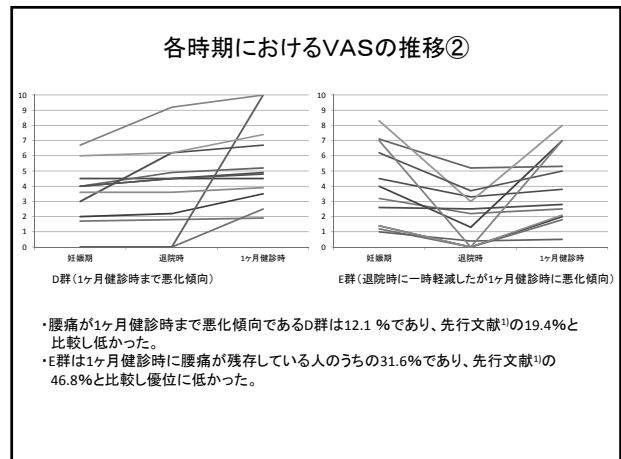
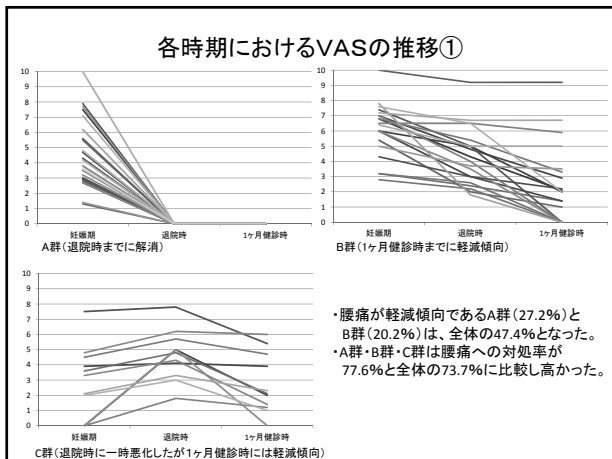
|            | 全症例n | 腰痛あり | 腰痛なし | p値     |
|------------|------|------|------|--------|
| 退院時栄養方法    |      |      |      |        |
| 母乳栄養       | 72   | 60   | 12   | 0.83※※ |
| 混合・人工栄養    | 27   | 22   | 5    |        |
| 1ヶ月健診時栄養方法 |      |      |      |        |
| 母乳栄養       | 73   | 60   | 13   | 0.78※※ |
| 混合・人工栄養    | 26   | 22   | 4    |        |
| 乳頭亀裂あり     | 4    | 4    | 0    | 0.36※※ |
| なし         | 95   | 78   | 17   |        |
| 糖水追加あり     | 4    | 4    | 0    | 0.36※※ |
| なし         | 95   | 78   | 17   |        |
| 会陰切開あり     | 34   | 28   | 6    | 0.93※※ |
| なし         | 65   | 54   | 11   |        |
| 妊娠期の就労あり   | 68   | 55   | 13   | 0.57※※ |
| なし         | 31   | 27   | 4    |        |

※※ $\chi^2$ 検定、フィッシャー正確確率検定

## 妊娠期と1ヶ月健診時のVAS



- 全期間腰痛があった人は40.4%、全期間腰痛がなかった人は17.1%であった。
- 妊娠期に腰痛はなかったが、退院時・1ヶ月健診時に腰痛があった人は5.1%であった。
- 妊娠期からの腰痛が産後にも同程度持続している人は29.2%であった。



### 各群の母乳率の比較

|             | 母乳 | 混合・人工 | 母乳率(%) |
|-------------|----|-------|--------|
| A群(n=27)    | 21 | 6     | 77.8   |
| B群(n=20)    | 12 | 8     | 60.0   |
| C群(n=11)    | 9  | 2     | 81.9   |
| D群(n=12)    | 9  | 3     | 75.0   |
| E群(n=12)    | 9  | 3     | 75.0   |
| 腰痛なし群(n=17) | 13 | 4     | 76.5   |

- C群(退院時に一時悪化した1ヶ月健診時には軽減傾向)の母乳率が最も高く81.9%であった。
- A群(退院時まで解消)、D群(1ヶ月健診時まで悪化傾向)・E群(退院時に一時軽減したが1ヶ月健診時に悪化傾向)、腰痛なし群の母乳率は、75.0~77.8%であった。
- 母乳率が最も低かったのは、B群(1ヶ月健診時まで軽減傾向)であり、60.0%であった。

### 痛みの程度が強い(VAS 5以上)群と痛みがない群の比較

|            | 強い痛み(n=39)      | 痛みなし(n=17)     | p値         |       |
|------------|-----------------|----------------|------------|-------|
| 年齢(歳)      | 33.9±4.7        | 33.2±3.8       | 0.6※       |       |
| 初産         | 初産              | 8              | 0.95※※     |       |
|            | 経産              | 9              |            |       |
| 分娩様式       | 経産              | 10             | 0.71※※     |       |
|            | 帝王切開            | 7              |            |       |
| 妊娠週数(週)    | 38.8±1.4        | 38.5±0.9       | 0.46※      |       |
| 出生体重       | 経産              | 3093.0±334.7   | 2932±297.0 | 0.19※ |
|            | 帝王切開            | 2987.5±341.2   | 2930±318.1 | 0.71※ |
| 非妊時BMI     | 21.9±3.3        | 21.3±3.3       | 0.55※      |       |
| 体重増加量(kg)  | 9.8±3.0         | 9.8±3.6        | 0.96※      |       |
| 乳頭亀裂       | あり              | 0              | 0.51※※     |       |
|            | なし              | 17             |            |       |
| 就労         | あり              | 13             | 0.21※※     |       |
|            | なし              | 4              |            |       |
| 会陰切開       | あり              | 6              | 0.47※※     |       |
|            | なし              | 11             |            |       |
| 糖追加        | あり              | 0              | —          |       |
|            | なし              | 17             |            |       |
| 退院時栄養方法    | 母乳 26(66.7%)    | 母乳 12(70.6%)   | 0.77※※     |       |
|            | 混合・人工 13(33.3%) | 混合・人工 5(29.4%) |            |       |
| 1ヶ月健診時栄養方法 | 母乳 28(71.8%)    | 母乳 13(76.5%)   | 0.43※※     |       |
|            | 混合・人工 11(28.2%) | 混合・人工 4(23.5%) |            |       |

※:検定、※※:検定、フッシャー-正確確率検定

### 考察

- 腰痛が母乳率に影響を及ぼすと仮定したが、影響していることは明らかにならなかった。
- 腰痛の実態として経日的変化や程度の調査を行い、妊娠期から産後に軽減している事例はマイナートラブルと推測された。一方、産後に腰痛が悪化している事例は先行文献と比較し少なく、今回調査しなかった分娩による負荷や育児を含めた日常生活動作が影響していたと考えられる。
- 母乳率は、直接授乳をせずに搾乳をボトル哺乳している場合も母乳栄養として集計していたため、授乳姿勢や授乳方法により差が生じるか検討することも必要である。

### 結論

- 本研究では、腰痛が母乳率に及ぼす影響は明らかにならなかった。
- 出産後の育児や授乳姿勢が身体へ与える影響と腰痛との関連性を調査し、育児負担軽減に向けた介入の検討が今後の課題である。

参考文献  
1)楠見 由里子ら:産褥期の腰痛の経日的変化と関連要因,日本助産学会誌 21巻2号,2007.